



大人も子どももいっしょに楽しめるオーガニックイベント「太陽と星空のサーカス」が池袋パルコの屋上に出張開催

# SORA PARCO

@池袋パルコ本館屋上 ※不定休

百貨店やファッションビルの屋上といえば、昔は遊園地やペット売り場、ゴルフ練習場、または期間限定でのビアガーデンなどが一般的だったが、近年、鹿児島島のマルヤガーデンズの「sora niwa」をはじめ、ルミネ荻窪の「ソラドファームルミネ」、銀座三越の「テラスファーム」、松屋銀座の「ソラトニワ」、KITTEの「KITTEガーデン」など、植物や水盤などのある屋上庭園として、訪れるひとのもうひとつの(居心地のいい空間)として活用されている。

そんななか、今夏、池袋パルコの屋上も、期間限定のイベント会場「SORA PARCO(ソラパルコ)」として一般公開をスタート。5月に中野セントラルパークで開催され、3万人を超える動員で注目を集めたオーガニックイベント「太陽と星空のサーカス」が出展開催し、たくさんの人で賑わった。

また、「恋する輪廻 オーム・シャンティ・オーム」や、「ポップ・マーリー ルーツ・オブ・レジェンド」、「サマーウォーズ」などいろいろなジャンルの映画の無料上映会「ROOF TOP FILMS」やANI(スチャグラパー)・TOKYO No.1 SOUL SETなどの音楽ライブ、お笑い、「アソラフリーマーケット」などを開催中。もうひとつの(イベント会場)として今後も展開していく。

■池袋パルコ  
〒171-8557 東京都豊島区南池袋1-28-2  
TEL:03-5391-8000(代表)



全米初登場1位となったロマンティック・ゾンビ・ラブコメ映画「ウォーム・ボディーズ」の上映を記念して開催されたゾンビメイクのイベントでみんなゾンビに変身!

# PARCO Marketing Report

# the across

vol.6  
2013

制作/株式会社パルコ「ACROSS」編集室 <http://www.web-across.com>



## 今月の定点観測

2013年9月7日(土) 実施/第393回

### カウントアイテム 男女リュック

そろそろ秋にシフトチェンジしたいという気分は、今秋最初は、コーディネートに黒を差す(着る)ことで表れた。

とはいえ、「困ったときの黒」、「とりあえずの黒」、「無意識の黒」が混在しており、今ひとつストリートファッション・マーケティング的には発見感が少ないため、プレサベイの結果、実は増えている「男女リュック」をカウントアイテム(=いちばん注目すべきトレンド)とした。

カウントアイテムの「カウント」の意味は、「流行ってる」を数値化する行為を差し、渋谷、原宿、新宿の各地点の男女別の「流行浸透率」は下記の通り。

- 渋谷(渋谷パルコバート1前)  
男性:19.7%(165人) N=839人/女性:3.8%(57人) N=1,511人
- 原宿(千疋屋前)  
男性:11.7%(160人) N=1,373人/女性:9.2%(212人) N=2,313人
- 新宿  
男性:10.0%(122人) N=1,214人/女性:3.5%(44人) N=1,248人

ポイントは、渋谷の男子と原宿の女子の浸透率が高かったこと。前者は、「シティボーイ」から「裏原系」へと着替えた(新人類ジュニア世代の男子)、後者は、同じようなスポーツアイテムのリュックが人気なのに加え、小さいリュックを下げ気味に背負うスタイルが比較的幅広い層(ギャル〜コンサバ系、ストリート系)にも浸透していることを示しているといえよう。

具体的なリュックのデザインとトライブ(グループ)の関係性は、ウェブサイトをご覧ください。

### ズームアップアイテム1 黒髪

定点観測では、服や小物だけでなく、ヘアスタイルやメイクなどに時代・社会の特徴が表れたときには、観察テーマとして注目している。今回は「黒髪」。同じテーマで取り上げたのは、2002年1月。つまり、約10~11年ぶりのトレンドといえる。

(いろいろ出た後のニューベシック(新定番))という状況は、実は当時とも似ており、そこに、①アジアっぽいモードなトレンド ②学校や就活でも大丈夫という安心感 ③ショートブームからの変化感 ④実は黒髪は白肌美人にみえる、といったような心理が影響しているように考察される。

### ズームアップアイテム2 カモフラ(迷彩)柄

先月から急増しているのがこれ。実は、秋の立ち上がりとともに、表参道や銀座・丸の内といったセレクトショップの店頭で一斉に増えたこともあり、若者だけでなくコンサバ系〜大人層にも急増。花柄、トロピカル柄、レオパード柄とならび、(大人(コンサバ系)のハズレ)として支持されているようだ。また、モスグリーンや茶系からのグラデーションなど、春のイエローやブルーに次いで、カラートレンドとしての反応ともいえそうだ。

■調査概要  
◎実施日:2013年9月7日 ◎観察場所/時間:渋谷、原宿、新宿/12:00~18:00  
⇒つづきは、ウェブで (<http://www.web-across.com>)

発行日/2013年9月1日 企画・制作・発行/株式会社パルコ「ACROSS」編集室 高野公三子、中矢あゆみ、菅原三知代、仲村あゆみ/本橋康治、アートディレクター/芦澤みほこ  
<http://www.web-across.com> 〒150-0045 東京都渋谷区神奥町8-16 渋谷ファーストプレイス tel/03-3477-5711 mail/info@web-across.com  
本誌の記事・デザインの無断転載を禁じます。 こちらからもダウンロードできます <http://www.web-across.com>

### カウント アイテム (今もっとも流行っているアイテムやスタイル、色など)



### 男女リュック

### ズームアップ アイテム (今はまだ数が少ないが、今後増えそうなアイテムやスタイル、色など)



### カモフラ柄 2

### グッドネイバーなまち、千駄ヶ谷

スポーツサイクル、サードウェーブ・コーヒーショップ、オルタナティブ・スペースやライフスタイルショップなど、新しいタイプのショップやビジネスでACROSSに登場する頻度が増してきた千駄ヶ谷エリア。一見特色のないような佇まいながら、じっくり歩いてみると、細い通りに小さな個性的なショップが点在している。

そこで、「アクロス」編集室では、第1回目の秋葉原、第2回目の下北沢について、この外苑前〜神宮前〜千駄ヶ谷を第3回目の「トレンド・フィールドワーク(以下FW)」の地として選定。ここから新しい動きが生まれる背景について、FWツアーを実施し、考察することにした。(写真00)折しも2020年、東京で2回目のオリンピックが開催されることが正式に決まり、国立競技場のある千駄ヶ谷は、これからますます注目が集まるエリアになりそうだ。

### キラー通りエリア

さて、近年、若い世代にとってはある種のレジェンドとしてファッションだけでなく「バブル時代」が話題になっているが、その80年代にファッショントレンドの発信地として注目を集めたのが、外苑西通りの青山通りから北の部分、通称キラー通りだ。「キラー」の

名前の由来にはいくつかあるが、青山墓地の脇を通る道だからという説が一般的だ。デザイナーのコシノジュンコ氏が70年代に命名したそうだ。

大型のブランドショップが並ぶ青山通りの風景とは異なり、この通りには比較的小さい建物が多く、ファッションビルとしてはちょっと異質な「青山ベルコモンズ」くらい。路面店も、ファッション・アパレルというよりは、インテリアやインポート雑貨、アート、洋書といったライフスタイル寄りの業態が多く、ゼロ年代後半以降は、スポーツサイクルのショップ(写真01,02,07)の集積が進んでいる。また、つい先日は、スターハウス棟がユニークだった築56年の原宿団地が、18階建てのマンション「ザ・神宮前レジデンス」へと建て替えられるなど、少しずつ変化しているようだ。

とはいえ、都会のど真ん中にも関わらず、日当りや風の通りもよく、欧米っぽい空気感が漂うのは昔も今も変わらない。

飲食店も、このエリアは異文化が感じられるユニークなコンセプトのものが多く。2013年6月に外苑西通りにオープンした世界の伝統的な朝ごはんを2カ月代わりで提供するカフェレストラン、「WORLD BREAKFAST ALLDAY(ワールド・ブレイクファスト・オールデイ)」(写真03~06)もそのひとつ。“朝ご飯を通して世界を知る”がコンセプトで、開店から閉店まで1日中朝ごはんが

# GOOD NEIGHBOR'S TOWN JINGUMAE, KITASANDO, SENDAGAYA

01



- 0.トレンドフィールドワーク(以下TFW)は青山ベルコンズのある南青山3丁目の交差点からスタート。キラー通りを千駄ヶ谷方面に曲がると、無印良品青山3丁目店の跡地にオープンした「ACTUS(アクタス)青山店」がある。(港区北青山2-12-28)
- 1.近年、キラー通りはインテリア・家具ショップにならび、自転車ショップが増えている。写真はブリヂストンのショールーム「BIKE FORUM AOYAMA」。インテリアショップの多くは青山>と明記しているようだ。(渋谷区神宮前3-1-26)
- 2.カリスマフレームビルダー・今野真一さんの自転車ブランド「CHERUBIM(ケルビム)ストア青山店」。週末はこだわりの大人客で賑わう。(渋谷区神宮前3-39-5)
- 3-6.最初の訪問先は、2カ月ごとに世界各国の朝食が食べられる「WORLD BREAKFAST ALLDAY」。(渋谷区神宮前3-1-23)
- 7.かつて原宿団地のあった角を入った場所にあるこだわりのヴィンテージサイクルショップ「HIP HIP SHAKE」。<神宮前>と表記している。(渋谷区神宮前3-36-26)
- 8.1990年9月の開館以来、キラー通りのランドマーク的存在ともいえる現代美術館「WATARI-UM(ワタリウム)」の前で、今回のコメントーター東泉一郎さんから解説。(渋谷区神宮前3-7-6)
- 9.ナチュラルローソンとフードクルックのコラボレーションによる複合コンビニ。全国からのこだわりの野菜や肉、魚、ワインなどの仕入れやレストランの運営のほか、中国料理店「美虎」のオーナーシェフ五十嵐美幸の監修によるデリコーナーも。一方、神宮前3丁目の交差点付近には「まいばすけっと神宮前2丁目店」もオープンしていた。

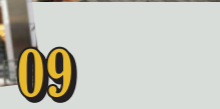
04



08



09



02



03



05

06



07

10



11



12



13



- 10.今回のFWで見つけた「LIFE KITASANDO(ライフ北参道)」は、オーガニックの野菜を始めとする食材へのこだわりが特徴のカフェレストラン。(渋谷区千駄ヶ谷3-30-9)
- 11.「バーニー/ニー/YOYOGI」は日替わりパスタとピザ(イタリア風ホットサンド)がテイクアウトできるイタリアン。代々木駅寄りの狭小地にトレーラーハウスを設置した店舗が存在感を発揮。(渋谷区千駄ヶ谷4-26-3)
- 12.「ACROSS」でも取材した「PAPIER LABO.(パピエラボ)」は、紙に関する雑貨、ステーションナリー販売と活版印刷のオーダーを受け付けるショップ。(渋谷区千駄ヶ谷3-52-5)
- 13.2013年1月に鳩森神社のそばにオープンした「BIRD & RUBY(バード・アンド・ルビ)」は、キラー通りからまい泉に向かう道にあるペーカリーカフェ「パンとエスプレッソ」の姉妹店。(渋谷区千駄ヶ谷1-21-3)
- 14.濃厚なミルクティの専門店「Monmouth Tea(モンマス・ティー)」。ロンドンのコベントガーデンで出会った「子どものころに見た懐かしく温かさが感じられる通り、モンマス通り」を探して千駄ヶ谷に出会ったのだそう。(渋谷区千駄ヶ谷1-21-2)
- 16.バブル期のスクラップ&ビルドの波を受けなかった千駄ヶ谷エリアには味わいのあるヴィンテージ・マンションがまだまだ多く残されている。

14



15



16



17



18



19



15.17-19. 最後は、森原茂一氏率いるディクショナリーが、運営する「ディクショナリー倶楽部千駄ヶ谷」を訪問。2013年4月に神南から千駄ヶ谷に移転した同施設は、築40年以上という建物をシェアオフィスを手がける株式会社シェアカンパニーがマスターリースし、「CHARI sendagaya(チャリ千駄ヶ谷)」と命名。シェアオフィス「co-lab(コラボ)」や、スタートアップの支援をするシェアオフィス「1000bit Valley」、ロードバイク専門スクール&ジム「Gran Diver(グランディヴェル)」、「観音橋食堂」など、カフェレストランと自転車が核となるシェアオフィスとして注目される。(渋谷区千駄ヶ谷1-13-11)

サブされるというからユニークだ。FW訪問時はメキシコだったが、9月からはベトナムだそう。

運営するのは、栃木県日光市に本社のある建築設計施工などを手がける有限会社日光デザインの木村顕さんと柴田智子さん。実は、2011年より「日光イン」という日光の農村にある日本家屋に滞在することをテーマにした宿泊施設の運営も手がけており、そこに宿泊する日本文化に関心の高い外国人へのアンケートがアイデアのペースとなっているようだ。

「このへん(千駄ヶ谷)は外国人の方も多いので、食文化を通していろいろな国のことを知るきっかけになれば」(柴田さん)。

「インディペンデントでユニークな小商いが目立つこのエリアですが、かつて他の街と変わらないような大規模な開発計画があったんですよ」と言うのは、このエリアに自宅兼オフィスを構えて約20年仕事をしてきたグラフィック・デザイナーの東泉一郎さん

(写真08)。

「もともと千駄ヶ谷は原宿や青山という商業地区のバックヤードという性格が強いまちで、それは今でも基本的には変わっていませんね。開発に至る前にバブルが弾けたので、今もこのあたりには古い物件が残っているんです」。

古い物件は賃料が比較的低いため、小商い(スモールビジネス)でも採算が採りやすい。また、近隣には古くからファッションやクリエイティブの仕事をする人たちの自宅兼アトリエや、自宅兼事務所、事務所兼ショップなど、日常的にクリエイティブな環境で過ごす、クリエイティブなライフスタイルの人も少なくない。

近年、千駄ヶ谷エリアに、ユルくてユニークなコンセプトのショップが多く誕生し、注目を集めている背景には、新しいアイデアに共鳴するクリエイティブな人たちが多く暮らしているエリアだからといえるだろう。

とで、60年代以降から現在に至るまでの各年代の建築が混在しながら残っている千駄ヶ谷。「ピラシリーズ」をはじめ、「外苑ハウス」、「秀和外苑レジデンス」など、現在ヴィンテージマンションとして熟成し、年月を経ても価値を落としていない名建築も多い(写真16)。こうした不変的な「まちのリソース」もまた、ファッションやデザインといった分野で活躍するクリエイターを、今も昔も変わらず惹き付けている要因といえるだろう。

北は新宿御苑、東は神宮外苑、西は明治神宮と三方を「聖地」に囲まれ、学校やスポーツ施設などが多い文教地区でもあるこのエリアには、盛り場特有の雑駁さもない。山の手の街から失われた意味での平凡さと、新旧のクリエイティブパワーがバランスよく混在していることが、この千駄ヶ谷エリアに独特の成熟感をもたらしている。

強力な集客装置こそないが、このまちの風通しのよさを求めて周囲の街から人が流れてくるまち。効率化が進み、遊びがなくなってしまった周囲の街にとって、千駄ヶ谷はGOOD NEIGHBOR=よき隣人のような街なのである。

(文/本橋康治、高野公三子)





ファッションやサーフィン、クルマ、食など、日常をアクティブに楽しむアメリカン・ライフスタイル、アメリカン・ウェイ・オブ・ライフとの親和性も高いのである。

### 千駄ヶ谷小学校周辺

イトキンやファイブフォックスなど、アパレル企業の本社やプレスルーム、オフィスなどが分散しているのが千駄ヶ谷小学校の交差点を中心としたエリアだ。ここから後述する鳩森神社～千駄ヶ谷駅周辺にかけては、小さなブランドのオフィスやショールームが街のあちこちに並んでおり、晴れている日には、段ボールや洋服ラック、トルソーなどが道に溢れているシーンもしばしば見かける。また、スタイリストやカメラマン、ヘアメイクなど、ファッション業界に関わるクリエイターの仕事場も多い。

00年前後に〈情報発信基地〉として一般的に認知された渋谷の街だが(「SHIBUYA2000REPORT」より)、その後、ゼロ年代の後半には、国内外のファストファッションや全国展開するチェーンショップで埋め尽くされるようになっていったのと並行して、インディペンデント資本のショップやユニークな試みのスペースなどは、どんどんその周辺のエリアへと拡散していった。

原宿が、〈カワイイ・ファッション〉の聖地として勢いを取り戻す一方、かつて渋谷を拠点にしていた団塊ジュニアやヘタウマ世代の多くは、大人(30代)になり、ライフステージの変化とともに、その拠点も中目黒や恵比寿、神山町や代々木上原、そして千駄ヶ谷へと広がっていったのである。

なかでも千駄ヶ谷は、04年、良質のインテリアや身近なアートを中心としたライフスタイルを提案するランドスケープ・プロダクツが「TAS YARD」をオープンしたあたりから注目が高まり始めたといえる。10年には「Be a Good Neighbor Coffee Kiosk」をオープン、サードウェーブ・コーヒーの発信源として東京のコーヒー文化に大きな影響をもたらすことになる(P6写真05～09)。

「コーヒーを飲むことで1日をスタートするようなコーヒースタンドが西海岸ではどの街にもある。東京にも、そんな店があればいいなと思ったんです」。

かつてマガジンハウスの編集者として「BRUTUS」「relax」「クウネル」などに携わってきた同社の岡本仁さんは「Be a Good Neighbor」について語る。周囲のコミュニティに隣人としてとけ込めるような、いい意味での普通さが「TAS YARD」や「Be a Good Neighbor」の魅力であり、それは千駄ヶ谷という、まちの性格をそのまま表しているように思える。



GOOD NEIGHBOR'S TOWN  
JINGUMAE, KITASANDO,  
SENDAGAYA

01



- 1.今もっとも注目すべき東京コレクションブランド「ANREALAGE(アンリアルエイジ)」がショップ兼事務所をオープンしたのは2011年。近年ショップ兼アトリエや小さな飲食店などが増え賑わうUA本店通りから少し入ったところであり、隠れ家的な存在となっている(渋谷区神宮前2-15-10)
- 2.今のアメリカブーム、LAブームの起点はアメリカ西海岸発のスペシャルティコーヒー「Ron Herman(ロンハーマン)千駄ヶ谷」1号店がオープンした2009年8月。その後、2011年8月に拡大リニューアルし、他店舗展開するまで実は2年もかかった。(渋谷区千駄ヶ谷2-11-1)
- 3-4.「ACROSS」でもレポートしたストリート系アパレルブランド、アレキサンダー・リーチャンのショップ「2(Ni)」は2012年1月にオープン。ロンハーマンよりもストリートカルチャーらしく、DIY精神の内装や「OMOTESANDO KOFFEEE(表参道コーヒー)」の豆を使ったコーヒーショップも併設。(渋谷区千駄ヶ谷2-10-6)
- 5-9.3軒目の訪問先は、コーヒーキオスク「Be a Good Neighbor」。元「relax」の編集長岡本仁さんが「PLAY MOUNTAIN(プレイマウンテン)」や「TAS YARD(タスヤード)」などを手がけるランドスケープデザインの代表中原慎一郎氏に「コーヒーを飲むことから1日が始まるライフスタイル」を提案。2010年にオープンした。(Be a GoodNeighbor:渋谷区千駄ヶ谷3-51-6/Tas Yard:渋谷区千駄ヶ谷3-3-14)ル」を提案。2010年にオープンした。(Be a GoodNeighbor:渋谷区千駄ヶ谷3-51-6/Tas Yard:渋谷区千駄ヶ谷3-3-14)

02



06



07



08



09

10



14



17

- 10.コンテナ形状がユニークな「STREAMER COFFEE」原宿店は2010年4月の渋谷に次いで翌11年にオープン。近年一般化しているハンドドリフトプコーヒーやラテアートのブームの起点は2010年。
- 11-14.2013年6月、明治通り裏の裏原エリアにオープンした複合施設「FLAG」。クリエイティブワーカーのためのシェアオフィスを核に、1Fにはナチュラルドリンク&アイスタンド「GREEN SHED」(07)やプロ向けのデジタルオンデマンドプリンターを個人ユーザーに開放する印刷工場型ショップ「Happy Printer」などがオープン。(渋谷区神宮前3-27-24)
- 15-16.2軒目の訪問先は、2013年8月にオープンしたばかりのフランス人デザイナーによるコレクションブランド「Julien David(ジュリアン・デビッド)」のオンリーショップ。日本のストリートカルチャーや伝統的な技術に魅了され、東京を拠点に活動している。店名表示は「JINGUMAE」。(渋谷区神宮前2-7-15)
- 17-20.2012年にランドオープンしたショップ、オフィス、アパートメント機能がひとつになった新しい複合施設「THE SHARE」が3番目の訪問先。普段は未公開の住民専用ゾーンもじっくり見学。スタイリスト兼フォトグラファー、ガーデナーの熊谷隆志氏によるルーフトップガーデンは、オープン後1年でずいぶんいい具合に茂ってきた(渋谷区神宮前3-25-18)

11



12

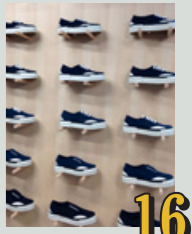
13



15



16



03



04



05

これからの千駄ヶ谷～北参道と  
鳩森神社周辺エリア

昔ながらの住宅地に個人経営の定食屋や、居酒屋、寿司店、カレーショップなどが同居する千駄ヶ谷3丁目エリアだが、2008年6月に東京メトロ副都心線が開通し、北参道駅が開設されたあたりから少し変化が現れはじめた。

オーガニック野菜にこだわったカフェレストラン「LIFE KITASANDO」や、食材のセレクトショップ「はらじゆく畑」、アイスマルクティー専門スタンドの「Monmouth Tea(モンマスティー)」(写真14)、「GOOD MORNING CAFE」やジュースバー「フラクタス」、「パンとエスプレッソ」の姉妹店「BiRd & rUbY」(写真13)など、こだわりの飲食店や食材専門店がオープンする一方で、

明治通りから1本入ったところにはディスカウントスーパーの「OKストア」の出店が計画されている。

また、自転車やライフスタイルショップなど、キラー通りの入口付近に多くみられた業態も徐々に千駄ヶ谷駅方面に進出してきている。2012年には自転車のある生活をコンセプトとしたシェアスペース「chari千駄ヶ谷」がオープン。地下にはクラブキングの「ディクショナリー倶楽部」(写真15,17～19)が入居し、従来の千駄ヶ谷にはあまり見られなかった夜型の施設として新しい風を呼び込んでいるようだ。

非ファストなグッドネイバー・タウン

バブル期のスクラップ&ビルドの再開発の波を受けなかったこ

神宮前2丁目エリア

70～80年代は「コム デ ギャルソン」をはじめとするデザイナーズブランド、90年代以降は、「APE」や「SOPH.」、「ナンバーナイン」といった裏原系ブランドなど、常に時代のキーとなるファッションブランドのショップや、アトリエ兼ショップが誕生してきたのが神宮前2丁目エリアの特徴でもある。

近年は、ジュエリーの「RUST」やレディスシューズブランドの「SALON BOUTIQUE」、アパレルの「ANREALAGE(アンリアルエイジ)」(P6写真01)や「Julien David Jingumae Shop」(写真15,16)など、ハイファッションとストリートカルチャーの両方を併せ持っているところが魅力の新世代ブランドがアトリエ兼ショップをオープンしている。

そんなクリエイターの周辺の仕事や生活をトータルにサポート

するような複合的なスペース)も増えている。「The SHARE」(写真17～20)や「kurukku home」、「FLAG」(写真11～14)などのシェアハウス/オフィスをはじめ、「2/Ni」(P6写真03,04)や「Bibliotèque(ビブリオテック)」のようなオフィスに飲食やギャラリー、スタジオ、ライブラリーなどの機能を併設した「オルタナティブ・オフィス」とでもいうような業態が渋谷のシェアオフィスとの違いといえそうだ。

神宮前2丁目方面に向かうと、かつてはこのエリアのランドマークだったスターバックスコーヒーとサザビーの複合店が、08年、ライフスタイルショップ「ロンハーマン」日本1号店として変身(P6写真02)。現在も続く、〈アメリカ西海岸カルチャー〉ブームのきっかけをつくったのは記憶に新しい。今では、平日休日を問わず、クルマで来店する「LAセレブ系」が集まるスポットとなっている。実は、千駄ヶ谷はクルマでのアクセスが周辺の他の街と比べるとよく、